

平成 28 年度

新しい共通教育について語り合う会

「フクトーク」報告書

主催 福山大学 大学教育センター（全学共通教育部門）

●趣旨

学生が国際社会の中で社会人としてのスキルを身に付け、教養を深めて高い見識を持ち、豊かな人間性を培うために共通教育の役割は大きい。そのため、共通教育の今後の充実が望まれる。そこで、魅力的な授業や学修支援の在り方等を一緒に考え企画することを学生に呼びかけ、学修の主体者である学生の参加による企画提案型の意見交換会を開催する。

これを通じて、共通教育での学び方の工夫、学びたい科目やテーマ、学修支援のポイントをはじめ学修成果が期待できる様々な工夫やアイデアなど、魅力的な授業方法や新しい学びの創出につなげ、共通教育の充実に資する。

●日 時： 平成 28 年 12 月 14 日（水）、16 時 30 分～18 時

●場 所： 大学会館 3F、ICT 教室「CLAFT」

●テーマ： 学修支援相談
—行きたいな、こんな学修支援室—

●参加学生

経済学部 1 名、人間文化学部 6 名、工学部 4 名、生命工学部 6 名、薬学部 5 名

計 22 名（うち、学部学科選出 22 名）

計 3 グループ

●プログラム

16:30 開会の挨拶（大学教育センター長）

16:35 全体説明

16:40 フリートーク

16:55 SGD の説明

17:00 SGD

17:35 グループ発表

17:50 講評・閉会の挨拶（大学教育センター長）

17:55 集合記念撮影・アンケートの実施

18:00 解散

●スタッフ

大塚大学教育センター長、小野准教授、地主准教授、竹盛講師、Tang 助教、津田講師、鶴崎准教授、中尾教授、日暮助手、前田講師、劉准教授、Lowes 講師、若松講師（五十音順）

●要旨

共通教育について学生同士が話し合い、学生たち自身が新しい授業や学修支援の在り方等を企画提案することを目的とした「フクトーク」も今年で5回となった。今回のテーマは、学修支援室の利用状況を鑑み、「学修支援相談」に決定した。テーマ決定後には、参加者募集に向けて過去に開催された内容などを載せた「フクトーク」のホームページも開設した。また、前回に引き続き、過去の「フクトーク」に参加した経験のある学生が司会を担当した。「フクトーク」参加学生の募集方法は、学内公募と学部学科からの選出の2段階となった。当日は3グループ分かれてSGDを行った。会場は、大学会館 ICT 教室「CLAFT」を利用した。

当日の活動の進行については、まず、大学教育センター長による開会の挨拶として趣旨説明を行ったあと、司会による全体説明としてSGDの意味、プロダクト、ルール、役割の説明を行った。続いてSGDに入る前に、フリートークの時間を設け、自己紹介を行うとともに、SGDを行うための司会進行係、記録係、発表者をグループ内で決めた。そして、学修支援室では、苦手科目の克服を目指している人、成績を上げたい人などを対象に、教員と連携して、学修相談や補習授業などを計画・立案・実施していることを確認し、この学修支援室をより利用したくなるプロダクトを考えてほしい旨を告知した。

SGDは、記録係が各グループに割り当てられた3面式のホワイトボードに議論のメモを行い、それをもとにプロダクトを作成した。SGDおよびプロダクトのまとめ作業合わせて35分という限られた時間であったが、各グループとも活発に議論がなされ、プロダクトのタイトル、提案内容、セールスポイントがホワイトボードにまとめられた。グループ発表では、各グループの発表者がプロダクトの内容について説明を行った。3つのグループのプロダクトのタイトルを以下に示す。

(ア) 行きたくなる学修支援室

(イ) 知ってもらおう来てもらおう学修支援室

(ウ) 学修支援室の利用

それぞれの提案内容は、

(ア)

- ・ポスターやゼルコバ、HPに場所や活動内容を載せる
- ・広い部屋にし、時間帯も遅めにして、グループでも行けるようにする
- ・行った際にお茶やお菓子を用意する。アンケートを取って満足度を測る
- ・成績表と一緒に学修支援の案内を配布する

(イ)

- ・先輩方からのティーチングアシスト（先輩は報酬が出る）

- ・ 学科ごとに設置（専門分野を増やす）
- ・ カフェのような雰囲気（お茶 50 円など）
- ・ 支援室を使う授業を作る（オリエンテーション期間）
- ・ ゼルコバ、掲示板で支援室の予定を連絡
- ・ 学生が生きやすいように放課後に増やす
- ・ 教員から学生に伝えてもらう

(ウ)

- ・ 支援室を学科等ごとに配置し専門科目へも対応できるようにする
- ・ 広告などをゼルコバで流す
- ・ 先生による呼びかけ（授業の中とかで）
- ・ 特別講師に来てもらう

というものであった。(ア)、(イ)、(ウ) 全てに共通している提案は、オリエンテーションや授業中、ポスターやゼルコバ、HP 等で学修支援室をもっと知ってもらうということであった。すでに学修支援室の活動を載せた HP もあり、授業中の呼びかけを行っている教員もいるが、まだ学修支援室の活動が十分には知れ渡ってはいない現状が見て取れた。また、会終了後に行ったアンケートの「今回のフクトークで提案されたプロダクトの中で是非実現してほしいものはありますか。」では、「おかし・飲み物を置き、カフェのような雰囲気を作る」が最も多い票を集めた。

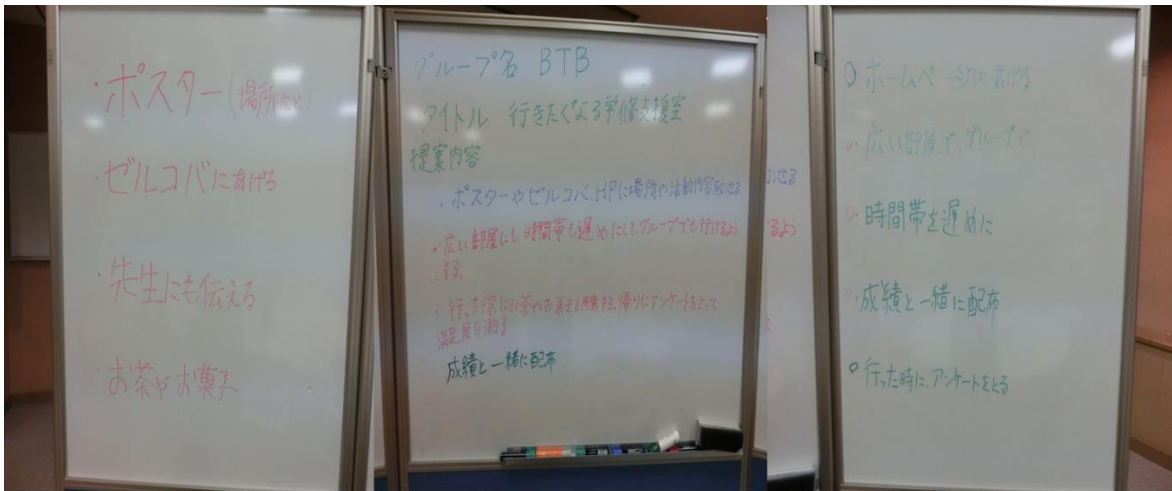
アンケート調査の結果から、参加学生のほとんどが「フクトーク」での話し合いが有意義であった、SGD への参加も良好であった、グループ人数が適切であった、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく仕組みを求めている、といった点に賛意を示していたことが分かる。次回参加への可能性については、内容によっては参加したい、要請があれば考えるを合わせて 50%であった。また、「フクトーク」開催時期・時間については、前回同様、平日の 5 時限に行ったが、これについては、68%の学生が適切であったと回答し、時間的な制約があったものの、ディスカッションの時間が適切であったという回答が 59%あったので、全体時間・プログラムについては概ね適切であったと考える。

大学教育センターでは学修支援相談室の活用について、今回のフクトークの結果を踏まえ、新入生オリエンテーション、教養ゼミでの学科ごとの説明に学修支援相談についての説明を盛り込むこと、および学内案内の時に学修支援相談室を訪問してもらうことを呼びかける等、いくつかの具体策について前向きに検討している。

最後に、今回も関係の多数の方々にご協力をいただいたことに、厚く御礼を申し上げたい。特に、依頼を快く引き受け、この会を成功させようと懸命に努め、当日見事な司会ぶりを発揮してくれた 3 年生の O 君と S 君に心より感謝申し上げたい。

●プロダクト (ア)

タイトル : 行きたくなる学修支援室



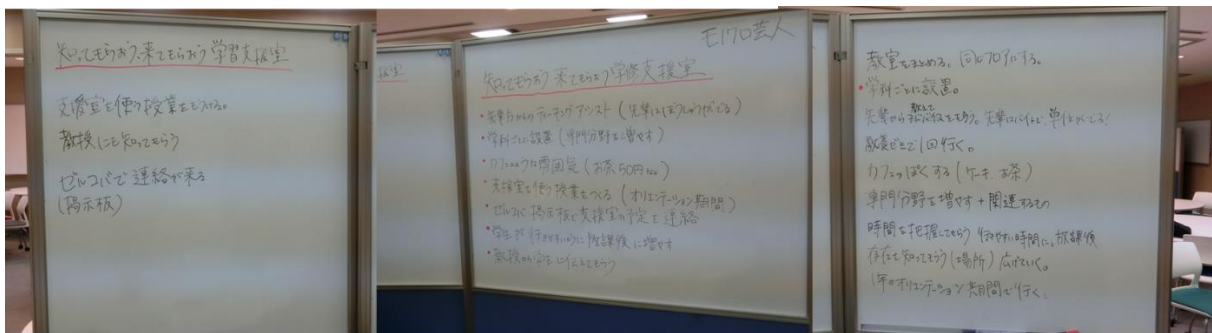
メモ(左)

まとめ

メモ(右)

●プロダクト (イ)

タイトル : 知ってもらおう来てもらおう学修支援室



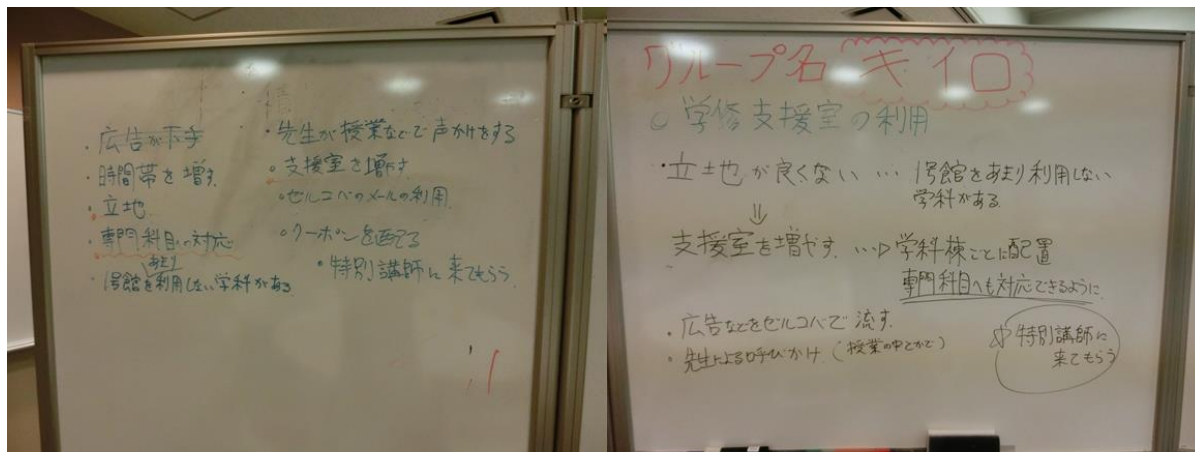
メモ(左)

まとめ

メモ(右)

●プロダクト (ウ)

タイトル : 学修支援室の利用



メモ(左)

まとめ



開会の挨拶



全体説明



SGD (スモール・グループ・ディスカッション)



発表

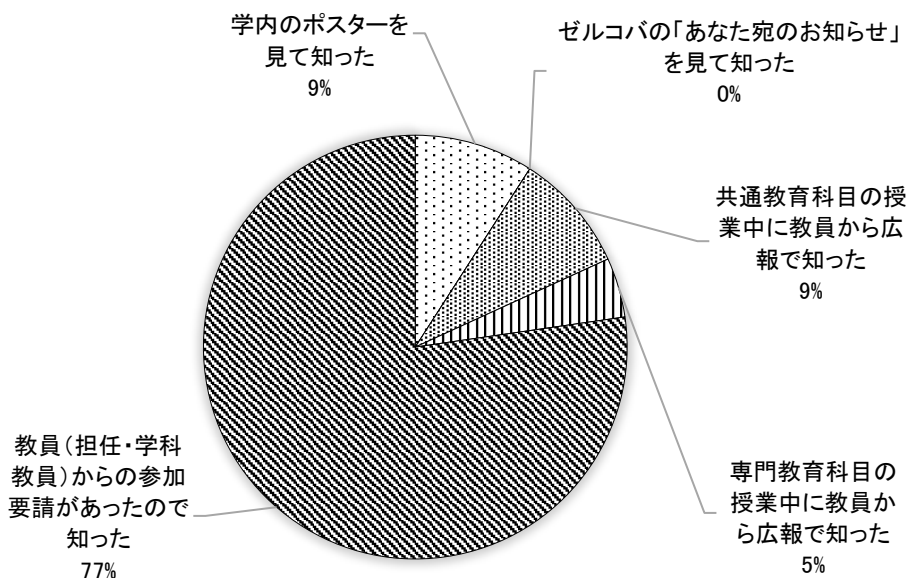


総評

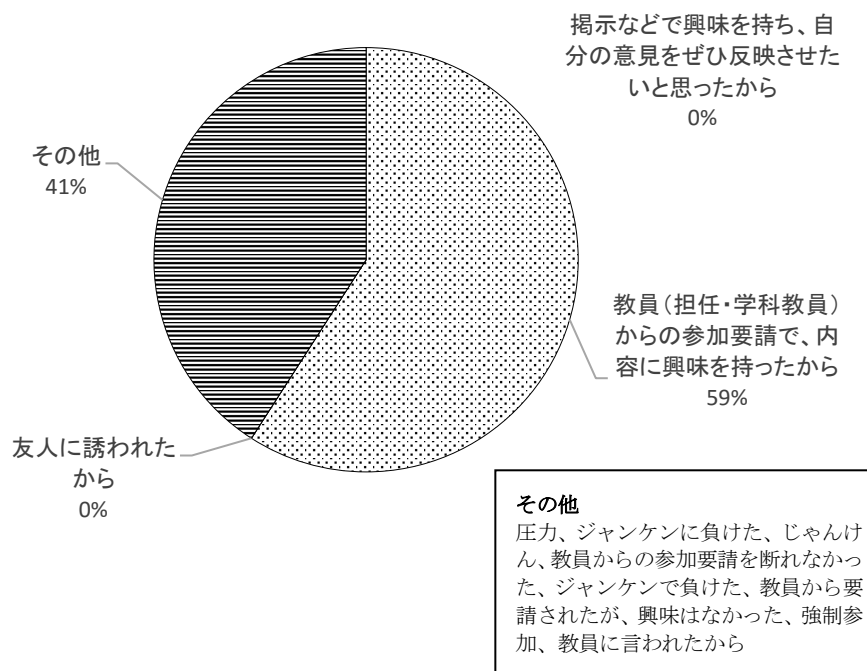
フクトーク参加者 アンケート集計結果

フクトーク参加者数 22 名、 アンケート記入者数 22 名

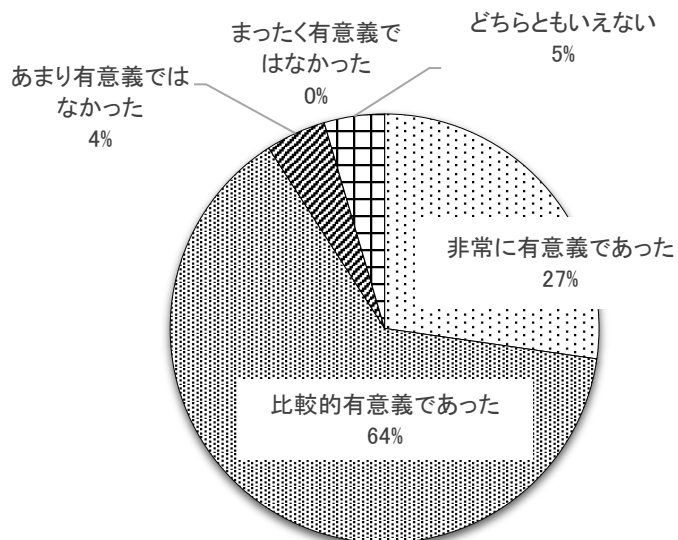
① フクトークをどのようにして知りましたか。



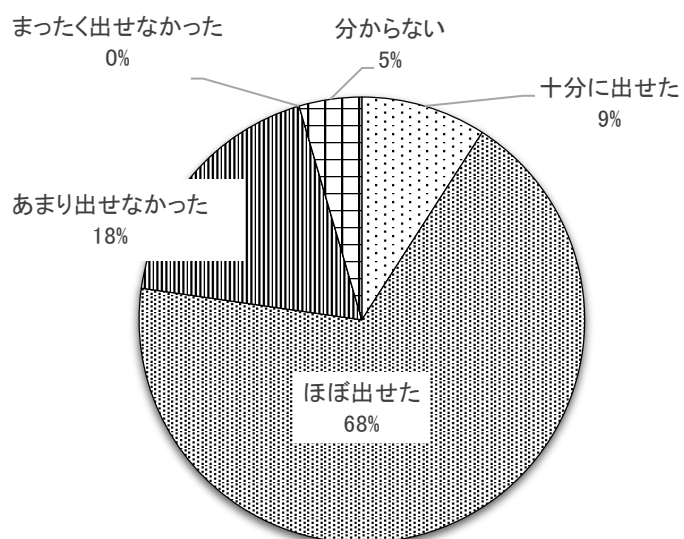
② フクトークへの参加の経緯を教えてください。



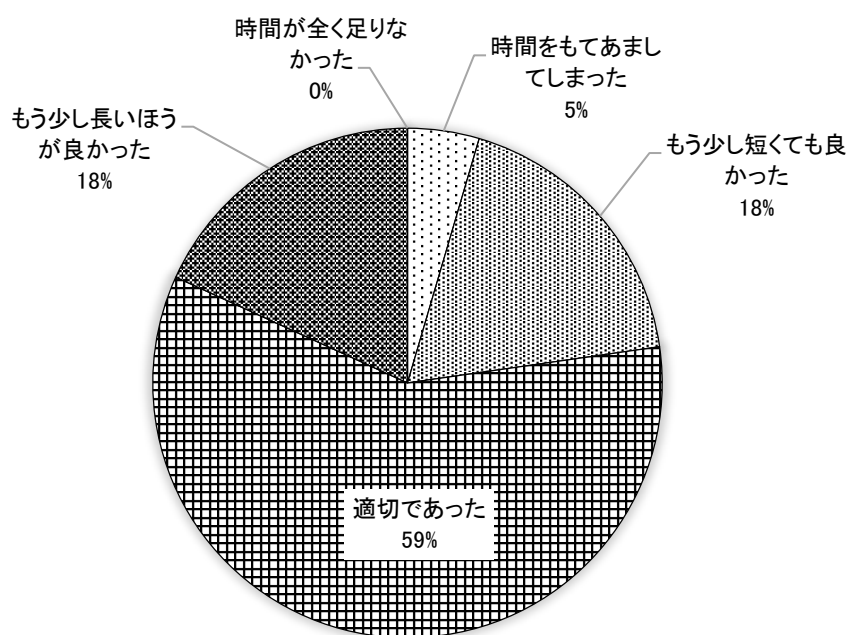
③ あなたにとって、フクトークでの話し合いは有意義でしたか。



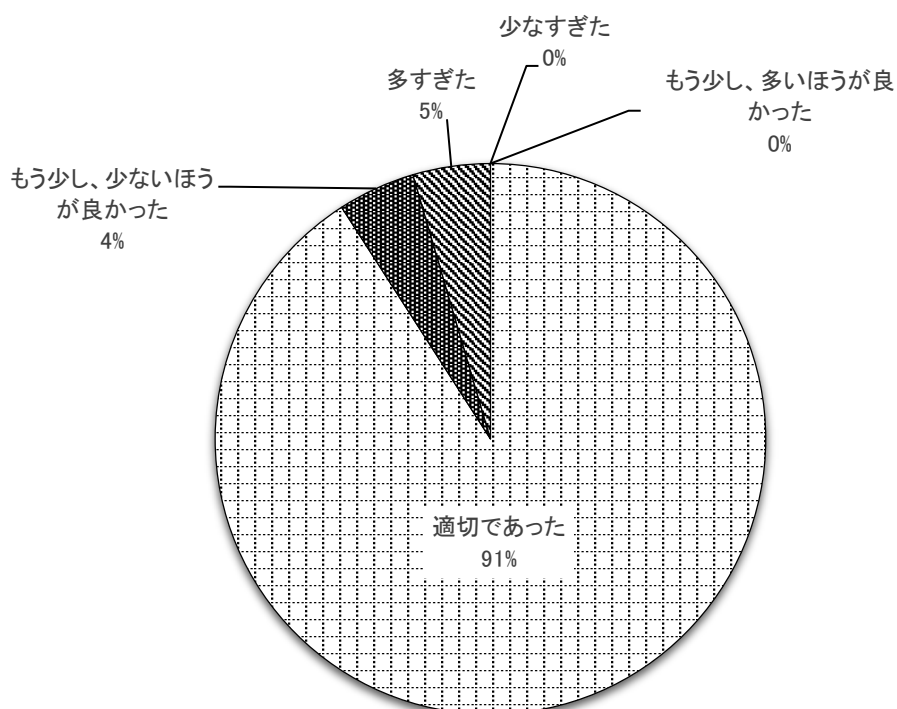
④ グループディスカッションでは、自分の意見を十分に出せましたか。



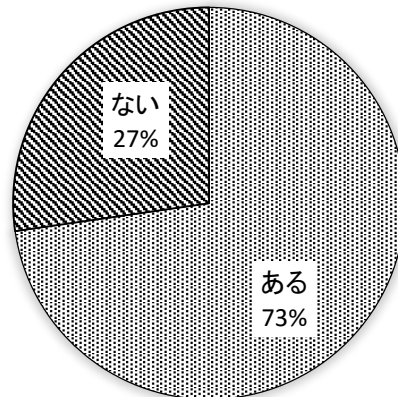
⑤ ディスカッションの時間は適切であったと思いますか。



⑥ グループディスカッションの1グループの人数は適切でしたか。

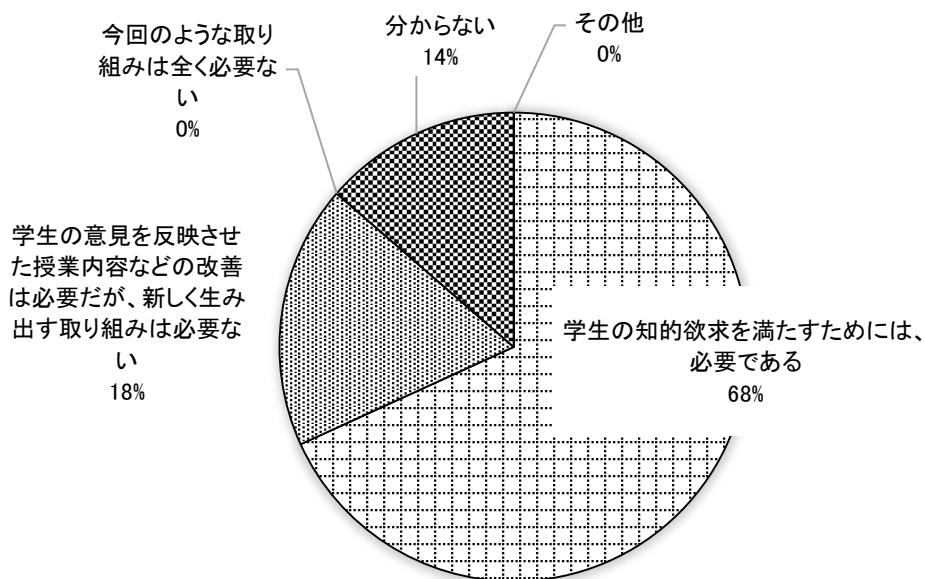


⑦ 今回のフクトークで提案されたプロダクトの中では是非実現してほしいものはありますか。

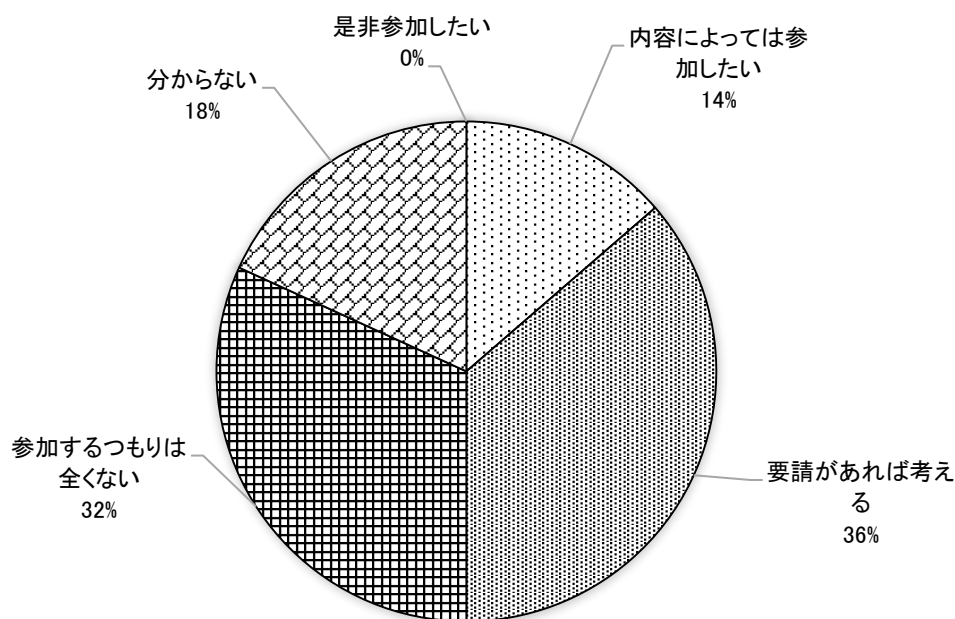


「ある」と答えた学生の提案など	人数
支援室を増やす	2
学科ごとに設置	2
おかし・飲み物を置き、カフェのような雰囲気を作る	5
成績表と一緒に支援室についての資料を送付する	2
教養基礎科目で学修支援室を使う	1
専門科目別で、支援室を増やす	1
先輩からのティーチングアシストの時間	1

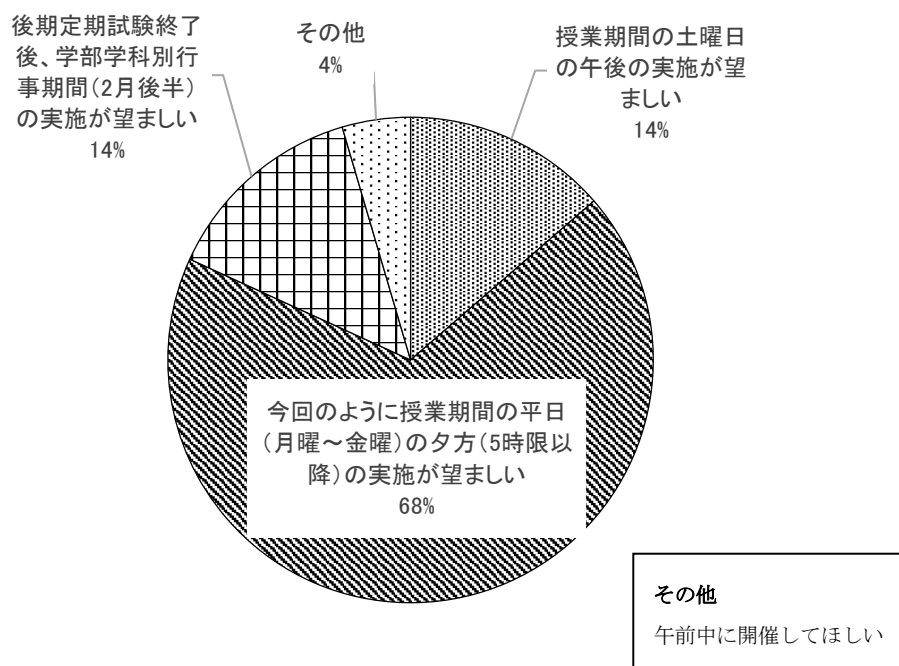
⑧ 今回、学修支援相談について議論をしましたが、学生の意見を取り入れた新しい授業などを生み出していく取り組みは、今後も必要と思いますか。



⑨ 次回のフクトークに参加したいと思いますか。



⑩ フクトークの開催時期、時間についての考えを教えてください。



⑩ フクトークに参加して、思ったこと、考えたこと、改善した方がよいことなど自由に記載してください。

- 否定的な意見はタブーと言われたが、現行の問題点から目をそむけては、改善されるべきものも改善されないと思った。人の意見を否定しないスタイルはそのままでもよい。
- 学修支援室の中身の薄さをより知れた
- 三蔵祭についてもぜひ
- プレゼンテーションを行ったり、初めて会う人との会話はとても重要なものだった
- 先生に無理やり参加させられたのに、文句をいろいろ言われた
- 割と良い意見が出せたと思う。みんなでたくさん考えることができた。
- 貴重な体験ができた